

や ら セ

「長期優良住宅のすすめ」セミナーを 全国各地で開催します。

去る11月19日、東京（すまい・るホール）で開催した標記セミナーが、好評でしたので、会員団体の要望に応え、全国各地で開催することにしました。

長期優良住宅の認定が昨年6月から始まり、消費者の関心が高まっています。長期優良住宅への取り組み、かつ、フラット35の活用、住宅履歴書の利用について多くの工務店が理解を深め、円滑に業務がすすめられるようになります。

- ・長期優良住宅は、良い家を作るだけではなく、維持管理や履歴管理が求められており、そのための実践的な業務の流れなど。
- ・長期優良住宅に関する様々な優遇制度活用のための手続き、関連する検査の相互関係など。
- ・長期優良住宅の普及のために、そのメリットや仕組み、取得に必要な資金手当など、ユーザー向けに提供すべき情報の要点など。

プログラム（予定） 13:30～17:00

(1) 「長期優良住宅をお客様にご理解いただるために」

講師：独立行政法人住宅金融支援機構

(2) 「長期優良住宅の業務を円滑に進めるために」

講師：一般社団法人工務店サポートセンター

(3) 「住宅履歴『いえかるて』とは」 講師：財団法人ベターリビング

(4) 「フラット35の活用について」

講師：独立行政法人住宅金融支援機構

主 催 全建連会員団体

共 催 一般社団法人工務店サポートセンター

後 援 独立行政法人住宅金融支援機構・財団法人ベターリビング

開催地 全国10カ所程度（会員団体から開催要望のあったところ）

時 期 平成21年12月～平成22年3月ごろ

日程・開催地（確定）

1月14日（金）広島

1月21日（木）富山

開催候補（要望）地 高知、愛媛、熊本、宮崎、和歌山、岐阜、愛知、秋田、北海道

詳細は、HPにてご案内します。

刊行物のご案内

●「木造建築士資格研修テキスト」平成22年度版

JBN工務店サポートセンターでは、木造建築士を木造住宅に関する専門の知識をもつ技術・技能者として位置づけ、「ちきゅう住宅検査員」となるために必要な資格としてこの資格の取得を広くよびかけてきました。長期優良（木造）住宅の扱い手の資格としても社会から高い評価が得られるよう取り組んでいるところです。

このたび採択された「長期優良住宅先導的モデル事業・既存住宅の改修」提案における「ちきゅう住宅インスペクター」S・LというJBN工務店サポートセンター独自の資格制度の基幹の資格としても位置づけています。これから「長期・ちきゅう住宅」仕様規定に対応し、自主検査システムにとっても必要な資格となります。

あわせて、地域の実状に応じた育成と処遇の改善、向上のために組織をあげて取り組むことにしています。

平成22年度の資格試験にあわせて改定増補しました。

工務店サポートセンター編、刊行・2010年3月 定価 3,500円（消費税込）、発行・井上書院

平成22年版表紙



全建連の工務店ネットワーク
JBN
Japan Builders Network

第6号発刊にあたって

新しい年は寅年。寅は「いん」とも読み、「動く」という意味があります。春が来て、草木が芽生える状態を表すとされています。また「引き伸ばす」という意味もあります。このトラをなぞらえた百獸の王・虎は、「一日に千里を走り、千里戻る」といわれるほど行動力があります。その千里の道も先ず一步から、工務店サポートセンターの寅年の目標は、行動力と持続力です。（F）

●発行/お問い合わせ

一般社団法人 工務店サポートセンター

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町12-4 建設国保会館1階

TEL.03-5643-5668 FAX.03-5643-5669

E-mail : jbn@jbn-support.jp homepage : http://www.jbn-support.jp

発行人：藤澤好一 ©工務店サポートセンター 禁無断転載

協力：社団法人 全国中小建築工事業団体連合会



工務店サポートセンター レポート

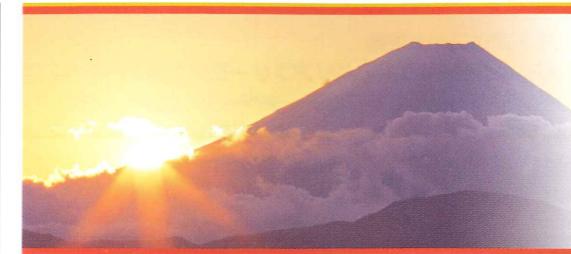
全建連の工務店ネットワーク
JBN
Japan Builders Network

- 「長期優良住宅」と「工務店」の時代 謹賀新年
- 事業報告
- 委員会報告
- 会員団体の紹介「(社)新潟県建築組合連合会(新建連)」
- ご案内

2010
January
No.6

発行人:藤澤好一
©工務店サポートセンター
禁無断転載

1
月号



「長期優良住宅」と「工務店」の時代
謹賀新年

社団法人 全国中小建築工事業団体連合会 会長
一般社団法人 工務店サポートセンター 理事長 青木 宏之

は、地域工務店でなければできない仕事です。そのため全建連では、平成20年より工務店サポートセンターを設立し、耐震、省エネ、バリアフリーの工事を、元請として施工できるサポートの仕組みを作りました。昨年より一般社団法人として、全建連の工務店会員をサポートしています。

現在全建連には、地域木造優良住宅（ちきゅう住宅）の自主検査員が約3000人います。これらの検査員に、(1) 木造建築士、(2) 建築防災協会の耐震診断、(3) 省エネルギー改修、(4) 増改築相談員、(5) 高齢者リフォームカウンセラー、(6) 現場管理、(7) 環境のCASBEE評価、等の講習メニューを作り、各地で開催する予定です。これらの資格を取得した検査員には、サポートセンターが認証する証明書を持ち増改築のインスペクターとして活躍していただきます。

長期優良住宅を作れる工務店になると捉えております。昨年6月4日に施行された長期優良住宅法により、「量より質」とこれからの日本の住宅像が示されました。長期優良住宅とは、(1) 地震でつぶれない家、(2) 環境に優しい省エネルギーの家、(3) メンテナンスをすることにより100年以上使える家、(4) 国で育った木材で作る家、(5) 住宅の履歴が保存され資産価値が何代にも渡って持続する家を目指します。

わざわざ全建連の工務店は、小さいながらも地域に根ざして、長い間木造軸組工法の家を作り、守ってきました。長期優良住宅こそが地域工務店が作る家です。

一方、この法律には「ストック重視」がうたわれています。約3000万戸の戸建木造住宅を長期優良住宅の水準にするの

年頭のごあいさつ

新春、あけましておめでとうございます。

会員工務店の皆様には、新春を迎える気持ちも新たに今年の抱負を夢描いていることと思います。

昨年わが国の住宅着工は約70万戸と、40年前の住宅建設5ヵ年計画がスタートした水準にまで落ち込みました。40年以上も120万戸以上に慣れてしまった者にとって大変な数字と言えます。

しかし、今年は新しい工務店の時代の始まりと捉えております。昨年6月4日に施行された長期優良住宅法により、「量より質」とこれからの日本の住宅像が示されました。

長期優良住宅とは、(1) 地震でつぶれない家、(2) 環境に優しい省エネルギーの家、(3) メンテナンスをすることにより100年以上使える家、(4) 国で育った木材で作る家、(5) 住宅の履歴が保存され資産価値が何代にも渡って持続する家を目指します。

われわれ全建連の工務店は、小さいながらも地域に根ざして、長い間木造軸組工法の家を作り、守ってきました。長期優良住宅こそが地域工務店が作る家です。

一方、この法律には「ストック重視」がうたわれています。約3000万戸の戸建木造住宅を長期優良住宅の水準にするの

国土交通省住宅局 住宅生産課
木造住宅振興室 室長 越海 興一

らだと考えます。すなわち、高水準の住宅供給に全建連が組織をあげて取り組み、多数の検査員を養成して自主管理を行い消費者からの信頼を得ています。このシステムの蓄積があつてこそ住宅瑕疵担保保険制度にも速やかに対応できました。住宅リフォーム瑕疵担保保険、住宅エコポイントといった施工段階の検査を要する新制度にも十分適用可能な土壤が育っていると思います。今後とも各保険会社窓口との連携を一層深め、増改築や技術開発に係る研究成果を生かし、全建連組織が住宅関連諸制度の的確な運用と工務店支援に力を發揮していただくよう期待しています。

すべては「ちきゅう住宅」から

新年あけましておめでとうございます。

全建連に工務店サポートセンターが設置されて以来、会員工務店へのサービス水準は相当手厚くなりました。この不況下で大幅に業績を伸ばす工務店も出ているそうで、非常に嬉しい限りです。特に、平成21年度から認定制度が開始された長期優良住宅に関しては、その前年に先導的モデル事業に採択されるなど積極的に取り組み、今般の「国産材モデル09」に結実しています。工務店の立場で建材や仕様を選別し住宅の品質を確定した画期的な成果であり、いずれ資材メーカーもカタログ等に「長期優良住宅向け」と明示するようになるでしょう。この取り組みが比較的スムーズに進んだのも、地域木造優良（ちきゅう）住宅の長年の実績があるか

一般社団法人工務店サポートセンター 事業報告

●新社員紹介

新しい社員として次の二名を臨時社員総会において承認しました。

- ・橋本政仁（有住まいの相談室 はしもと 室長）
- ・武部豊樹（武部建設㈱ 代表取締役）

●新年の抱負

運営副幹事長 和田正光（組織部門担当）

明けましておめでとうございます。

住宅着工戸数の百万戸割れは確実になったようです。まさに嵐の中の船出となった工務店サポートセンターですが、お陰様で時々々々会員工務店様が増えております。皆様の危機感の表れかもしれません。工務店のための工務店による組織として、多くご参加いただいた工務店の皆様の期待に応えるために、私どもの組織整備と会員組織拡大のための担当幹事として選任されました。すでにご加入の会員工務店様には、より良い情報サービスを、そして残念ながらまだ未加入の工務店様には1社でも多くご参加頂けますよう努力します。同時に工務店の皆様のみならず住宅産業に関わる多くの皆様の力を集結させたいと考えております。

運営副幹事長 長森延久（研究・教育部門担当）

新年、明けましておめでとうございます。

工務店サポートセンターも、「工務店のネットワーク」として唯一の全国組織を！と目標にし、少しずつですが参加者も増え、認識されはじめましたことは、青木理事長のご尽力は勿論、幹事の方々、メンバー各位、関係者の皆様方の絶大なるご支援とご協力があつてこそ、と思っております。感謝！

一般社団法人として、組織改革をすすめサポート事業の一環として「研究開発」、「次世代育成」、「研究ワーキング」の担当として、運営副幹事長を任命され、その重大な役割と責任に応えたいと考えております。今年の活動は、主に次世代・増改築・環境の各委員会の充実を図ること、そして技術者育成事業の確立をテーマに、少しでも工務店のグレードアップのお役立てればと思っておりますので、引き続き、皆様方のご協力をお願い申しあげます。

運営副幹事長 後関和之（財務部門担当）

新年おめでとうございます。新しい年を迎え、いま日本の建築を取り巻く環境が大きな変化を始めています。特に工務店が得意としている住宅では“壊しては建て替える”から“丈夫に作って長く使い続ける”さらに“古い家を改善して長く使う”というように流れが全く変わってきた。この新しい風は、現場で知恵を絞り汗して住宅を造ってきた工務店にとってこの上ない追い風を受け止められます。昨年サポートセンターではこの様な変化に対応できるように組織を強化し、新しい変化に向かって前進する体制を作りました。私たちが本当に必要とされる時代が来たことを予感しています。皆さん一緒に頑張りましょう。

平成21年度（第2回）長期優良住宅先導的モデル事業に採択された事業

●新築部門

「全建連・地球木造優良（ちきゅう）住宅先導システム国産材モデル09」の受付

採択戸数は500戸です。

・エントリー申請の受付開始 11月26日～平成22年2月26日

・交付申請の受付：12月7日～平成22年度着工可能日まで

※但し、500戸に達した時点で締め切り（先着受理となります。）

・完了報告締切：平成23年2月1日必着

ただし、今年度の出来高に応じた補助金交付を希望される物件は、12月25日（金）必着、実績報告書類は2月1日（月）必着（この時点の出来高に応じて、4月中に補助金が交付される予定）。

- ・新申請書式はホームページからダウンロードできます。
- ・エントリーの上限は1社25棟（本・支店を合わせて1社とし、支店が別法人登記の場合も含む）。
- ・折衝中の建築主でもエントリー可能ですが、建築主が未定の場合はエントリーできません。
- ・先導モデルの申請を行う場合の「ちきゅう住宅検査員」は建築士資格の保持が必須条件となります。
- ・申請にあたってはホームページに掲載されている注意事項に合意が必要です。

●既存住宅の改修部門

「全建連・ちきゅう住宅既存改修システム先導モデル事業」の受付

・採択条件の詳細が確定次第、ホームページで受付を開始します。

●高齢者居住安定化モデル事業

「地域工務店による既存住宅のバリアフリー改修の推進とその実績にもとづく改修関連の指針類と資材データベースの整備」の受付

・本年度は25戸の着工を予定しています。会員への配分方針、エントリーの受付、交付申請などの詳細は決定次第、ホームページでお知らせいたします。

委員会報告

環境委員会

●次回委員会予定 1月13日（水）於・建設国保会館

特別レクチャー「住宅エコポイントについて」など

増改築委員会

●第10回委員会 12月9日（水）

採択された二つ提案「全建連・ちきゅう住宅既存改修システム先導モデル事業」と「高齢者居住安定化モデル事業・地域工務店による既存住宅のバリアフリー改修の推進とその実績にもとづく改修関連の指針類と資材データベースの整備」の取組み方針について協議した。

年度内の着工、完工には期間的に厳しく、その他条件等を明確にするために、作業分担を割り振り、年内に詳細を固めるための委員会を持つことにした。（F）

次回 12月25日（金）14:00～建設国保会館

次世代委員会

●委員会 12月9日（水）

2009年最後の委員会は、全委員に今年を振り返って反省や感想などを語ってもらいました。

講習会や研修旅行、現場見学など、なかなか中身の濃かった1年だった。特に委員メンバーによる手作りの消費者向けセミナーは、大変だったが印象深い活動だったので、来年は是非セミナーの回数を増やそうという声が多く出された。また、文化遺産的な建物の見学や、その地の文化や歴史に触れる旅行など、普段なかなか出来ないような経験を積むことも必要だという意見もだされた。

その後、先に出て意見を踏まえて次年度計画の話し合いが行われ、同時にこれからの委員会の位置づけと方針を長森・和田両副幹事長から提示された。夜の忘年会では藤澤センター長の締めで、無事、2009年を終えることが出来た。

●2010年の抱負

委員会活動をもっとわかりやすく、多くの参加を得るために、委員会の規約を見直し、委員拡大にともなう組織づくりをすすめたい。

これに則して、消費者向けセミナーの連続開催や地域開催、また、テーマ別の分科会やワーキンググループによる活動など、次年度以降の活動提案として具体化していきたい。

いまはまだ暗中模索の委員会ではあります
が、これらを含めた多



くの課題とワークをこなし、少しでも多くの参加者を得て、より実質的な充実した会にしていこうと考えています。今年一年、どうぞよろしくお願いいたします。（鈴木晴之）

国産材利用拡大委員会

●第3回研修会 11月17日（火）

山長林業㈱、(株)山長商店の協力のもと研修会を開催した。当日は雨の中、藤澤センター長にも参加していただきました。午前中に山長林業が所有する山林を訪ねた。山長グループの本社は和歌山県田辺市の市街地にある。そこから東へ約20キロ。3ヶ所にまとまつたかたちで山長林業の山林がある。その総面積は5,000ha。それを4名で管理している。

今回はその中のひとつの山林に敷設された林道をマイクロバスで登って行った。車内では山長林業㈱松本部長が明快な説明が行われた。先の台風で被害を受けている杉の大木が多いことに驚いた。

当地では、1haあたり約5,500本の苗木を植えるという。ちなみに吉野が10,000本/ha、九州では2,000本/haの植林が実施されている。単位面積あたりの本数が多いほど、年輪の中心部分が細くなる。木材の用途やその土地の気候風土に応じて木のつくり方を選べ、という説明を聞く。

途中、田熊貯木場で選別された木材を見学したあと本社工場へ。榎本社長より会社の歴史、現在の国産材主流の経営について説明を受けた。

広大な敷地の中に工場がならんでいる。年間約30,000m³の丸太を挽く。特に目に付いたのは、役ものをきちんと仕分けしている点と、プレカット前の木材を丁寧に目視し「適材適所」に心がけている点であった。単なる大量生産ではなく、職人の眼と技が息づく工場であることを感じた。

山長グループは山林経営→製材→プレカットを一貫した生産体制をとっている。このような一貫生産は一見効率がいいように見えるが、各部署で他社との競争意識が働きにくいという課題を克服しなければならない。山長グループはそういった課題を乗り越え、職人技をブレンドすることで発展を遂げている。

今回の参加者の中に工務店が少なかったのが悔やまれる。（山田貴敏）

紀州の老舗である山長商店の山林及び、プレカット工場見学会を行いました。1817年には山林を取得し5000haにおよぶ山では、年間20回もの見学会が行われ、多くのお施主様も訪れているとのことです。

国産材価格の下落や自然災害による被害、さらには長期に及ぶ林業経営の困難さなど、今日の林業を取り巻く多くの課題に悩まされているようだ。しかしながら、JAS強度表示の実現、産地やJASマークの材への印字による「見える化」、バイオマスボイラーの導入による環境負荷低減など、今の時代と利用に合わせた様々な取り組みを行っており、先進林業地としてのあり方を見ることができます。今後、川下の工務店と山との連携が、ますます重要になると感じます。

帰り、榎本常務に勧められて購入した紀州梅の梅干しとゆでしらすは非常に美味で、紀州の良い香りがするような気がしました。（小林）



山長商店での説明



丸太梁のプレカットライン

会員団体の紹介

「(社)新潟県建築組合連合会(新建連)」

<http://www.niigata-kenren.jp/>

裾野が広い人材育成の風土

全建連会員団体の中でも最大規模の組織です。日本海沿いに長く南北に伸びる新潟県は、下越、中越、上越に大きく分けられていますが、それぞれに、13、25、14、合わせて52の支部から構成されています。支部はさらにプロック、地区に分かれ、県全域をくまなく組織しています。その会員数は1万2千強。かつては1万6千を数えた大きな組織です。会員の約6割強が大工職で、その1割強が法人としての工務店です。

新建連のホームページが充実しており、「地域の匠」の存在を一般県民に向けて広報しています。「地域の匠を勧めるわけ」というページでは、「ちきゅう住宅」とは、を次のようにアピールしています。全建連に加盟する工務店が建設する地域木造優良住宅で、地域の「ち」は、地域に適した家を地元の工務店で作る。木造の「き」は、木の優れた特性を活かした「人に地球にやさしい」木造住宅。優良の「ゆう」は、全建連のサポートによる安心の優良住宅。こうした取組みもあって、ちきゅう住宅検査員数は、会員団体の中では群を抜く、356名を数えます。

新建連が主な事業として掲げているのが、建築技能者の社会的地位の向上、技術の進歩改善、育成と訓練指導、経営力向上などです。とくに技能訓練への寄与は、顕著なものがあります。支部の事業内訓練から発展した職業訓練協会は現在、12団体が活動しています。県の職業訓練センターと統合し、機械系、IT系などと統合した協会もありますが、建築系の、木造建築科のみのところもあります。

新建連主催による技能競技大会が毎年開催されています。今年も地区予選を勝ち抜いた40名の選手によって技が競われました。こうした土壤があることで、建築大工部門の技能五輪全国大会、技能グランプリ全国大会では毎年、上位入賞者を出しています。ちなみに第46回五輪大会では、金賞、銅賞、敢闘賞2を、第25回グランプリ大会では、金賞、銀賞2の入賞者を出しています。五輪金賞に輝いた小島真穂さん（十日町市・有尾身建築）は、この9月カナダ・カルガリーで開催された第40回技能五輪国際大会に日本代表選手として出場しました。

技能五輪、グランプリで審査委員を長年務める近藤進氏（西蒲原職業訓練協会会長）にお聞きしたところ、若い人を育てる指導者が潤沢なことを挙げられた。多くが両大会への出場経験を持つ人たちで、雪国特有の冬場の闇な時期に新建連支部が連携して腕を磨き、刺激を与え合うのだそうです。



第40回技能五輪国際大会で競技中の小島真穂さん